

北海道浮魚ニュース

平成 21(2009)年度 6 号 (通巻 No.277)

2009 年 7 月 3 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

道西日本海スルメイカ調査結果 (おやしお丸 : 6/24 ~ 7/1 の調査)

前年比で分布密度はやや上回り, 魚体サイズもやや大きい

スルメイカの分布密度と魚体サイズ

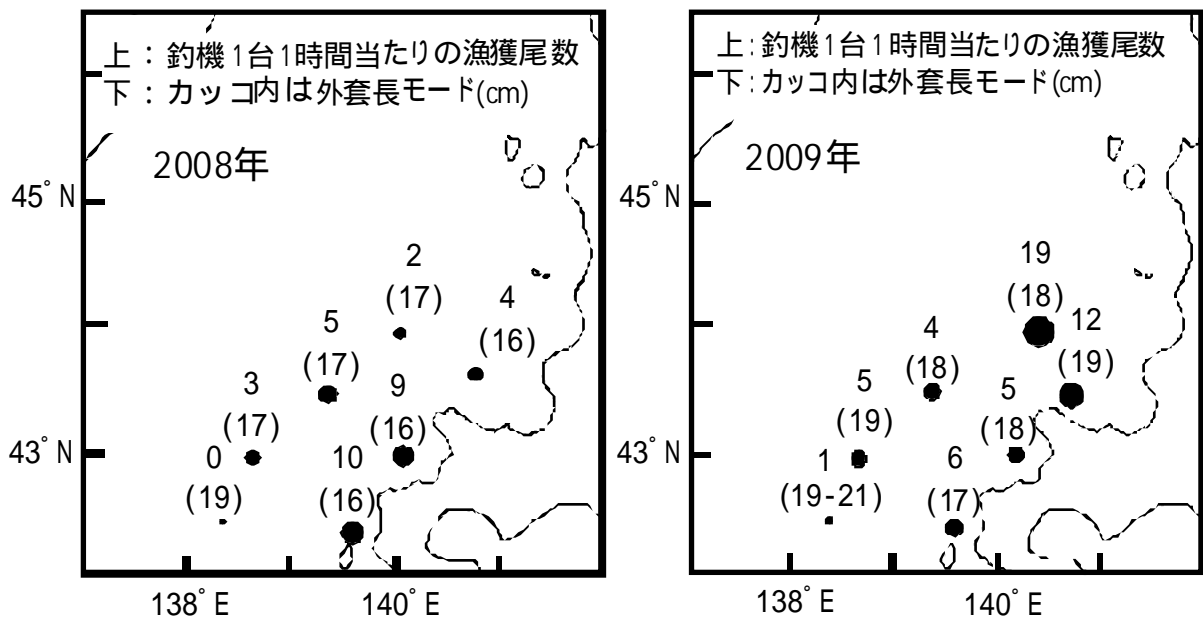


図 1 道西日本海におけるスルメイカの分布密度と大きさ

モードとは各調査点で最も多く漁獲されたイカの大きさのことです。

各調査点におけるスルメイカの分布密度 (CPUE : 自動いか釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 1 ~ 19 でした (図 1)。積丹半島北沖の調査点が最も CPUE が高くなっていました。最低は一番沖合で南側の調査点でした。調査全体の平均 CPUE は 7 であり前年 (5) をやや上回りました (図 2)。しかし, 1995 年から 2008 年までの平均値 (12) より低い値でした。

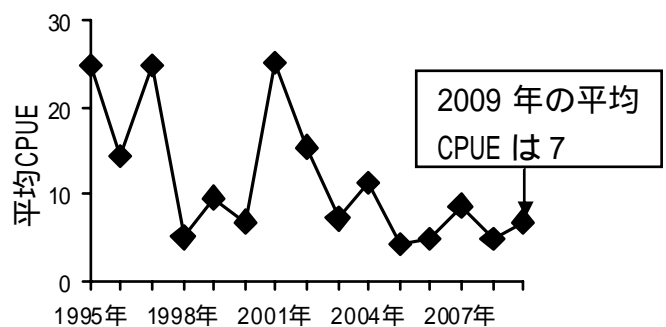
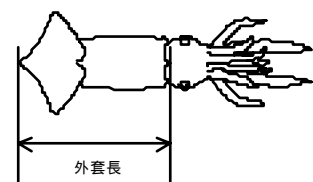


図 2 平均 CPUE の経年変化

各調査点におけるスルメイカ外套長のモードは 17cm から 21cm で (図 1), 沖合の南側 2 点と積丹半島北沖で大きく, それ以外の調査点では 17 ~ 18cm モードの調査点が多くなっていました。一番沖合では 19 ~ 21cm が同じ頻度でした。全調査



点合計でも 18cm 台が中心で，前年よりも大きいものの，過去 10 年平均より 21cm を超える大きいイカが少なくなっていました（図 3）。

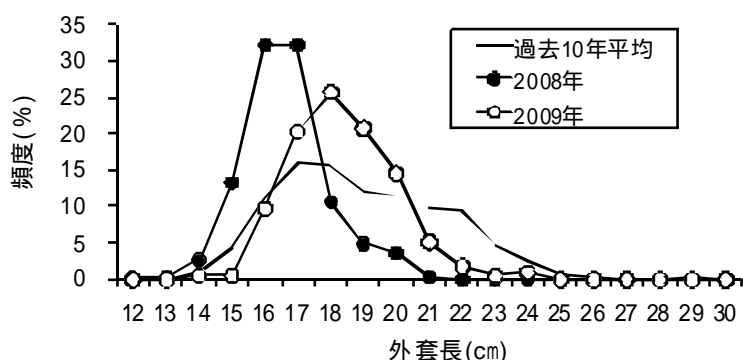


図 3 調査海域全体の外套長組成

水温分布

調査海域の 50m 層水温は、5.8 ~ 14.7（前年：3.3 ~ 11.5）でした（図 4）。沿岸の 10 以上の水域が前年よりも広がっていました。また、調査海域の表層水温は 15.0 ~ 17.6（前年：13.9 ~ 17.6）でした。

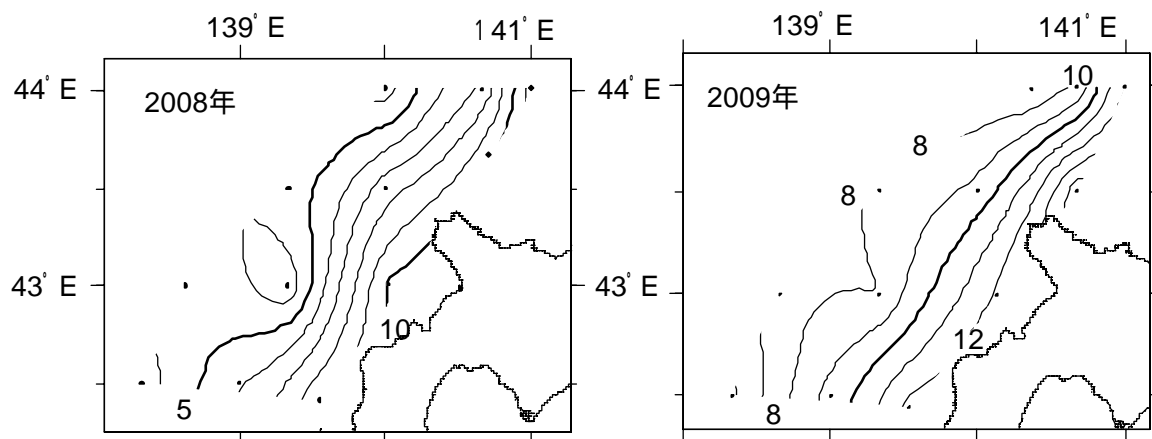


図 4 6 月下旬の 50m 深水温

標識放流

積丹半島北部の 2 調査点で合計 498 尾のスルメイカに標識をつけて放流しました。標識は「黄色アンカータグ，M52 - M56」です。裏面に JP と記載されています。標識のついたスルメイカを再捕された方は、お近くの水産試験場にご報告いただきますよう、よろしくお願いいたします。

表 1 標識放流情報

放流位置	放流尾数	標識種類	標識番号
44-00N 140-22E	298	黄色アンカータグ	JP-M52 ~ M54
43-30N 140-40E	200	黄色アンカータグ	JP-M55 ~ M56

今回の調査は「日本海スルメイカ漁場一斉調査」の一環として実施しました。全船の調査終了後の 7 月下旬には、漁況予報が発表されます。

（文責：中央水産試験場資源管理部，TEL:0135-23-8707，FAX:0135-23-8709）